

B型肝炎母子垂直感染予防の長期予後に関する検討
(分担研究：B型肝炎母子感染防止対策の追跡調査及び効果判定に関する研究)

研究協力者 白木和夫、飯塚俊之
共同研究者 細田淑人、岡本 学、村上 潤

【要約】HB_e抗原陽性妊婦から出生した児で、予防処置後HB_s抗原陽性とならず5年以上経過観察できた症例43例(男20例、女23例、年齢5～13歳)を対象として、血漿由来HBワクチン(PHB)と遺伝子組み換えHBワクチン(r-HB)とに分け、HBワクチンの長期効果を検討した。

ワクチン終了1～2ヵ月後のHB_s抗体価に関しては、PHBの場合高反応群は14例(54%)、r-HBでは全例が高反応群であった。長期経過(5年以上)におけるHB_s抗体の有無については、PHBの場合HB_s抗体陰性は26例中3例(12%)であった。この3例は初期のHB_s抗体価上昇も低反応群・無反応群の症例で、複数回の追加ワクチン投与を施行していた。一方、r-HBが、初期の反応のみならず、長期におけるHB_s抗体価の持続という面からも、PHBに比較して良好な成績であった。しかし、r-HB施行例で初期のHB_s抗体反応が高反応群に属していても、5年以上の長期においては検査上HB_s抗体陰性となる症例があり、垂直感染防止処置におけるHB_s抗体価がいつまで持続するかという点に関して今後検討していく必要があると考えられる。

【見出し語】小児、B型肝炎ウイルス、母子感染、B型肝炎ワクチン、HB_s抗体価

【研究目的】昭和61年1月から、B型肝炎ウイルスの母子感染予防が全国的に国の防止事業として開始され、B型肝炎ウイルスの撲滅が期待されている。当初、血漿由来HBワクチン(PHB)が用いられていたが、平成2年から遺伝子組み換えHBワクチン(r-HB)も用いられるようになり、能動免疫獲得率の改善が報告されている。今回、B型肝炎ワクチン(HBワクチン)投与後のHB_s抗体産生能に関して、本年は接種後長期(5年以上)における検討を行う。

【対象と方法】鳥取大学医学部附属病院小児科において、HB_e抗原陽性妊婦から出生した児で、予防処置後HB_s抗原陽性とならず5年以上経過観察できた症例43例(男20例、女23例、年齢5～13歳)を対象として、HBワクチンの長期効果を検討した。初期効果として、3回目のHBワクチン終了後1～2ヵ月におけるHB_s抗体価(RIA法；COI)より、HBワクチン反応良好群(10≦)、低反応群(2≦かつ<10)、無反応群(<2)の3群に分けた。

【結果】 ワクチン終了1~2ヵ月後のHBs抗体価に関しては、血漿由来HBワクチン（PHB）の場合高反応群は14例（54%）と半数を占めるに過ぎないが、遺伝子組み換えワクチン（r-HB）では全例が高反応群であった。

長期経過（5年以上）におけるHBs抗体の有無については、PHBの場合HBs抗体陰性は26例中3例（12%）であった。この3例は初期のHBs抗体価上昇も低反応群または無反応群の症例で、複数回の追加ワクチン投与を施行していた。

一方、r-HBの場合長期経過におけるHBs抗体陰性は17例中1例（6%）であった。陰性の1例は初期のHBs抗体価は高反応群であったが比較的抗体価は低く、追加ワクチンの投与は受けていなかった。

【考案】 HBe抗原陽性妊婦から出生した児を対象としてHBワクチンのHBs抗体産生能を検討したところ、現在日本で使用されている遺伝子組み換えHBワクチン製剤であるr-HBが、初期の反応のみならず、長期におけるHBs抗体価の持続という面からも、PHBに比較して良好な成績であった。しかし、r-HB施行例で初期のHBs抗体反応が高反応群に属していても、5年以上の長期においては検査上HBs抗体陰性となる症例があり、垂直感染防止処置におけるHBs抗体価がいつまで持続するかという点に関して今後検討していく必要があると考えられる。

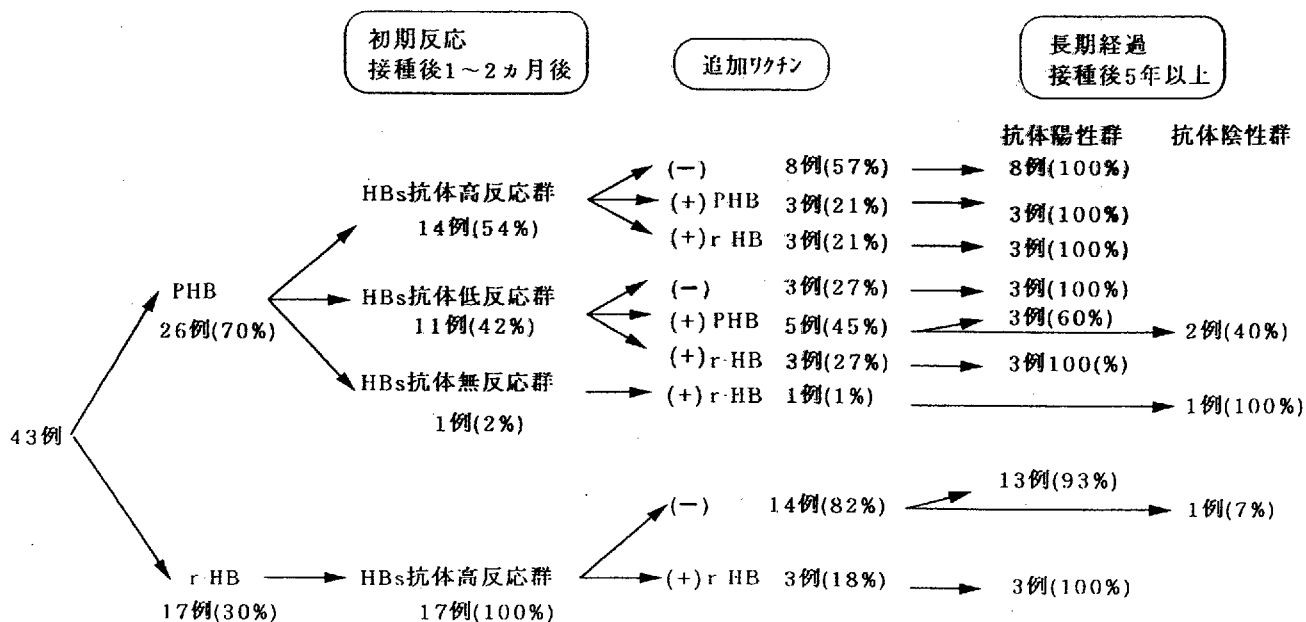


図1 HBe抗原陽性妊婦から出生し、予防処置をした児の長期経過（5年以上）
HBs抗体（RIA）陽性：2COI以上



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



【要約】 HBe 抗原陽性妊婦から出生した児で、予防処置後 HBs 抗原陽性とならず 5 年以上経過観察できた症例 43 例 (男 20 例、女 23 例、年齢 5~13 歳)を対象として、血漿由来 HB ワクチン(PHB)と遺伝子組み換え HB ワクチン(r-HB)とに分け、HB ワクチンの長期効果を検討した。

ワクチン終了 1~2 カ月後の HBs 抗体価に関しては、PHB の場合高反応群は 14 例(54%)、r-HB では全例が高反応群であった。長期経過(5 年以上)における HBs 抗体の有無については、PHB の場合 HBs 抗体陰性は 26 例中 3 例(12%)であった。この 3 例は初期の HBs 抗体価上昇も低反応群・無反応群の症例で、複数回の追加ワクチン投与を施行していた。一方、r-HB が、初期の反応のみならず、長期における HBs 抗体価の持続という面からも、PHB に比較して良好な成績であった。しかし、r-HB 施行例で初期の HBs 抗体反応が高反応群に属していても、5 年以上の長期においては検査上 HBs 抗体陰性となる症例があり、垂直感染防止処置における HBs 抗体価がいつまで持続するかという点に関して今後検討していく必要があると考えられる。